

株式会社ニコン

2005年3月期 中間決算説明会から

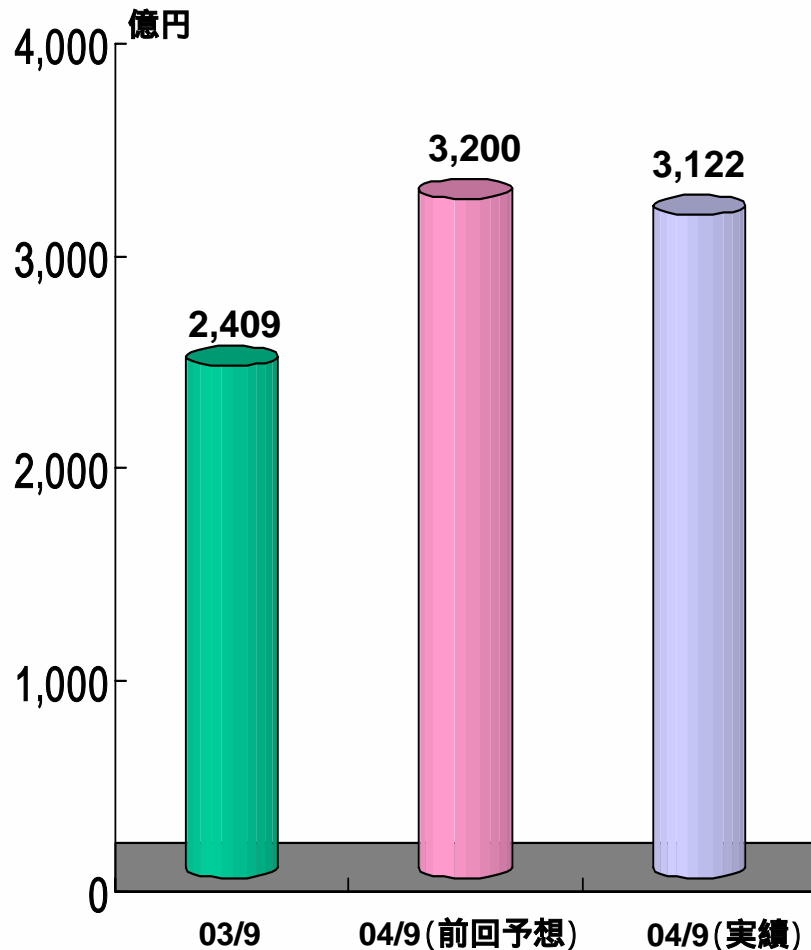
本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスク及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。



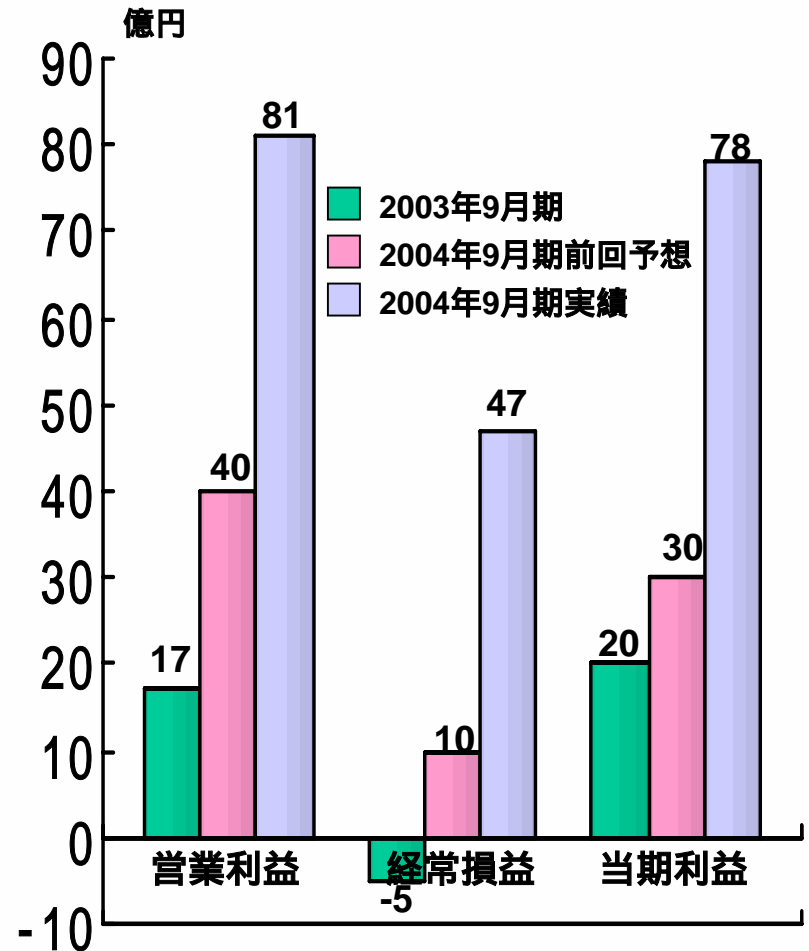
2004年9月中間期の実績

2004年9月中間期 決算概要

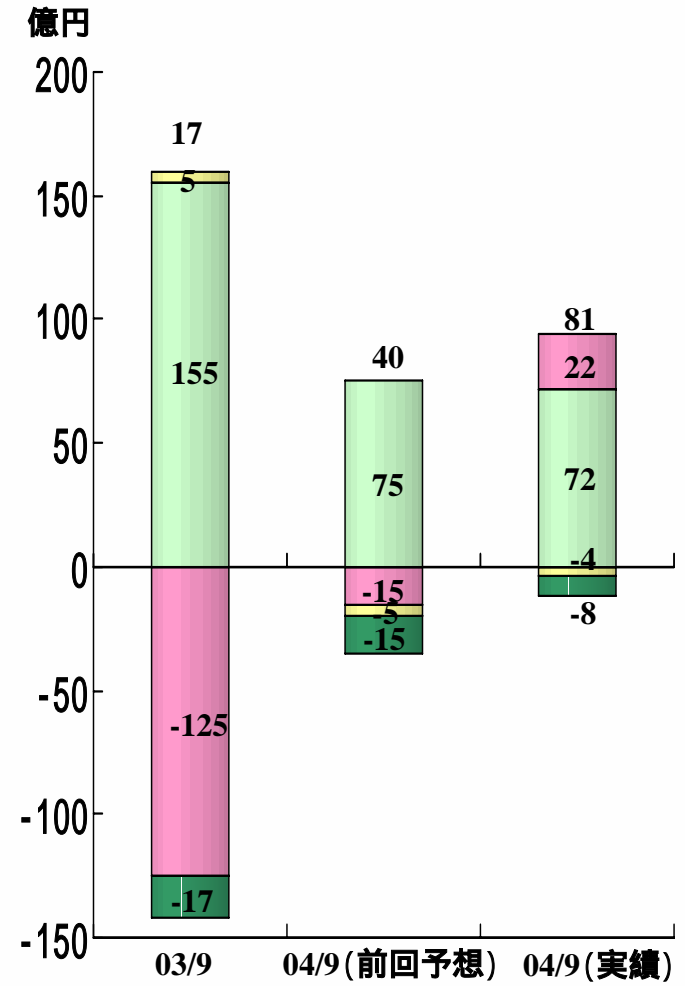
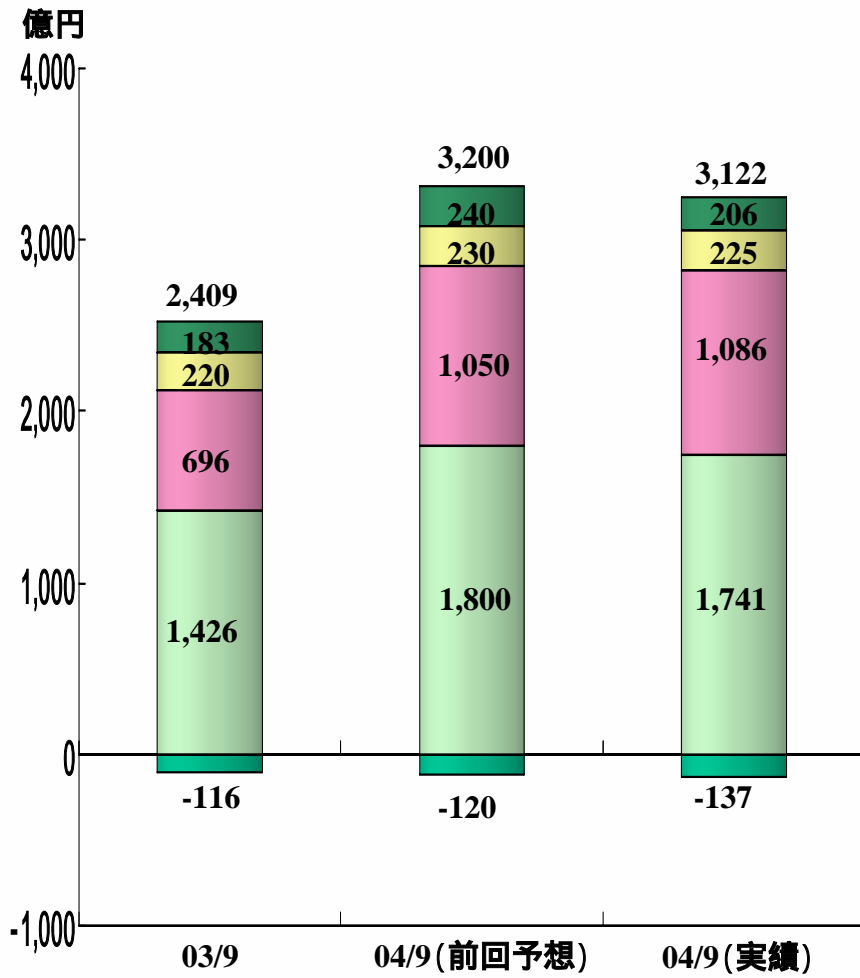
売上高



損益



セグメント別売上高/営業利益



映像カンパニー
 精機カンパニー
 インストルメンツカンパニー
 その他

ステッパー販売台数とカメラ出荷台数

ステッパー(台)

	03/9	04/9 前回予想	04/9 実績
IC用新品	76	110	109
中古	8	25	34
IC用小計	84	135	143
LCD用	15	40	40
合計	99	175	183

カメラ(万台)

	03/9	04/9 前回予想	04/9 実績
DSC コンパクト	215	355	300
DSC 一眼レフ	8	55	50
DSC合計	223	410	350
交換レンズ	61	80	74
銀塩 一眼レフ	41	19	12
銀塩 コンパクト	44	4	4

2004年9月中間期のまとめ

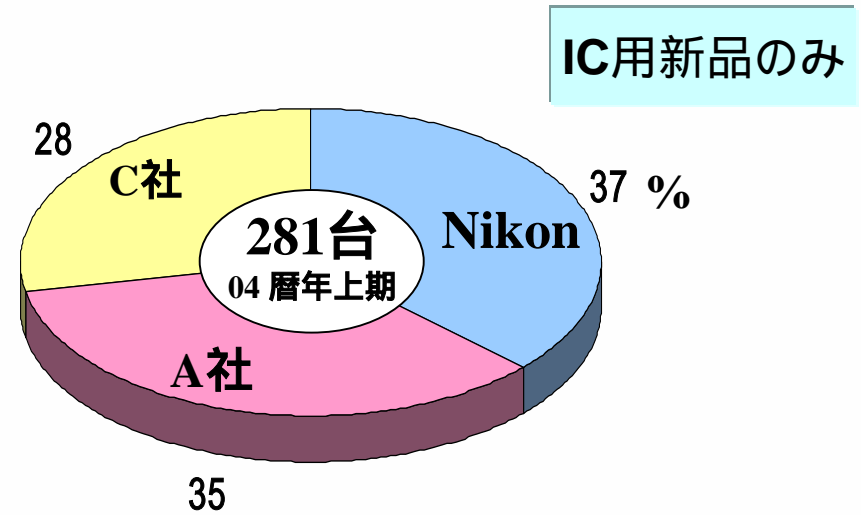
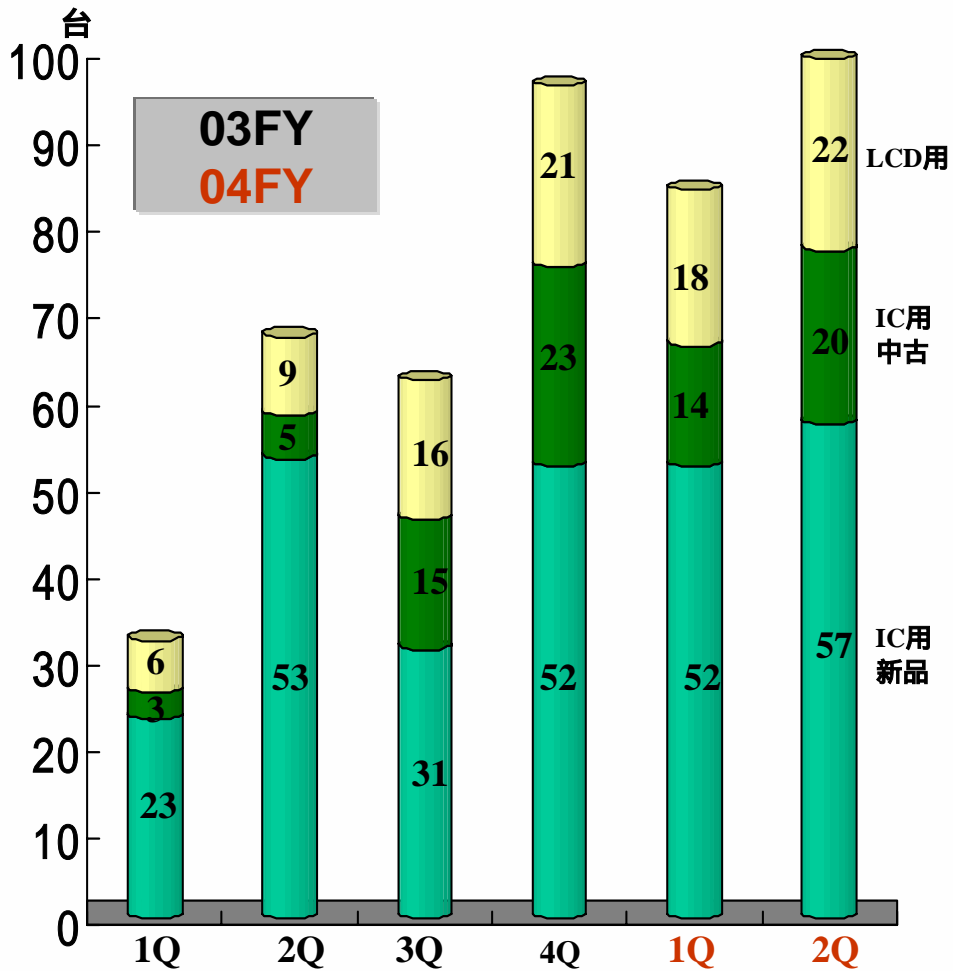
- 売上高は前回予想を若干下回ったものの、中間期として過去最高を記録。
- 営業利益は映像がコンパクトDSCの価格競争の更なる激化の影響を受けたものの、精機事業の改善が奏功し、前回予想を上回った。
- 映像カンパニーは、COOLPIXシリーズの中国工場での生産を開始。レンズユニットの内製率も40%まで上昇。デジタル一眼レフD70は好調を継続。増産を予定通り実施し、現在は月産約10万台。
- 精機カンパニーでは、ドライArF機 NSR-S308F (NA0.92) の製造と、ArFを延命化させる液浸技術の評価用装置の開発に注力。また次世代液晶露光機の開発拠点として横浜製作所横須賀分室を10月1日に開設した。
- 2001年12月以来係争中だったASML社との特許訴訟で9月に和解の基本合意に達し、今月正式調印予定。和解金等として145百万米ドル(約160億円)の受け取りが決まった。



2004年9月中間期参考データ

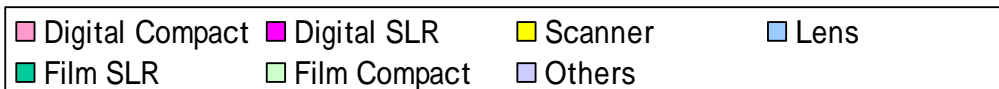
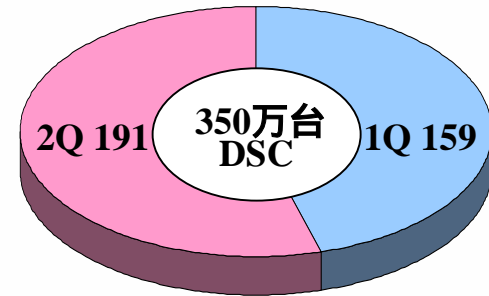
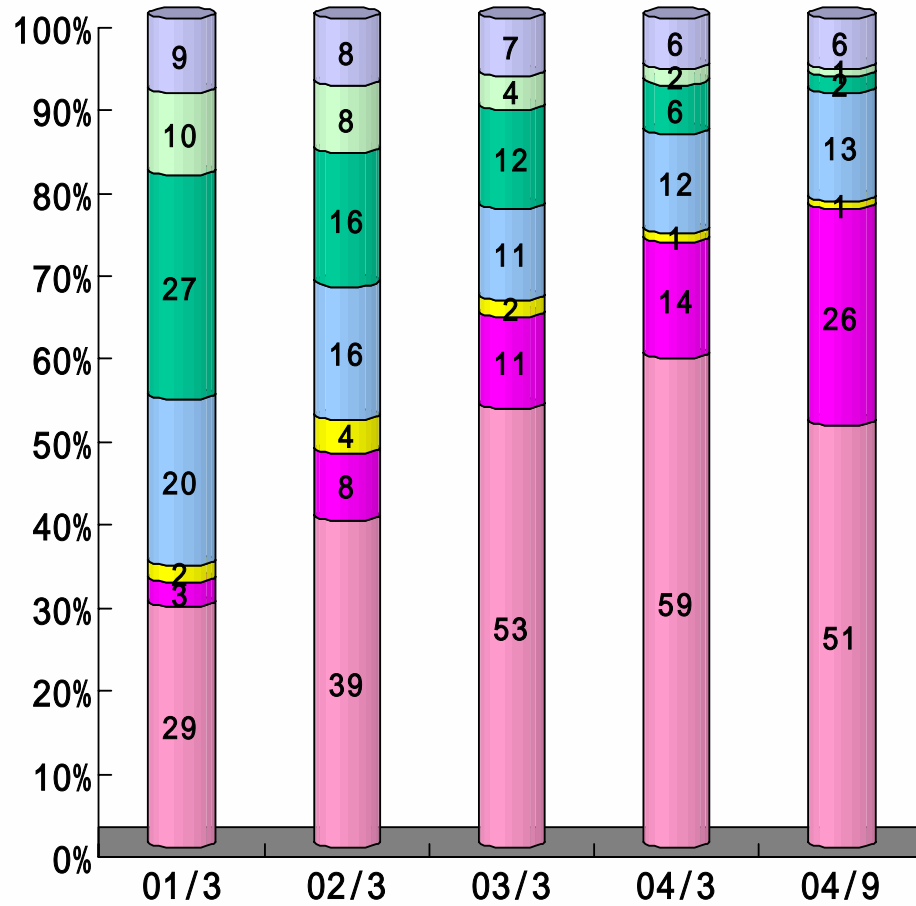


ステッパー販売台数の推移とシェア





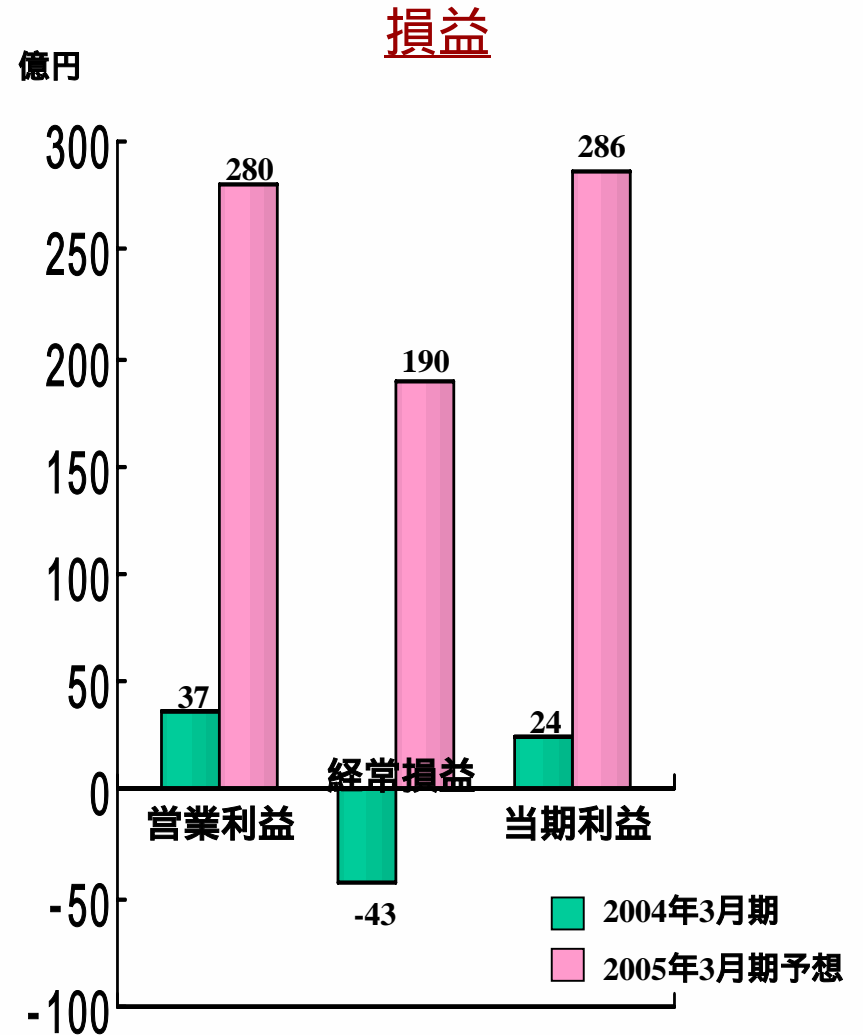
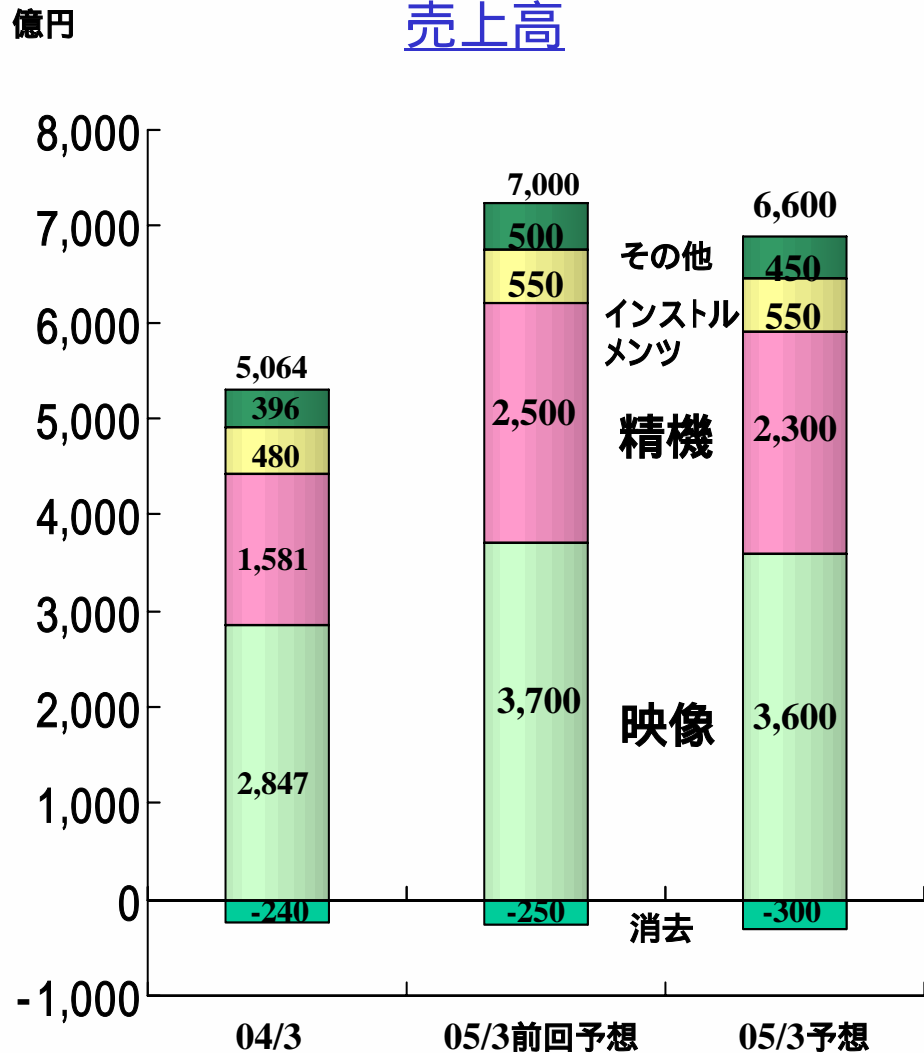
映像カンパニー 製品別売上高比率推移と DSC出荷台数



2005年3月期の予想



2005年3月期 業績予想

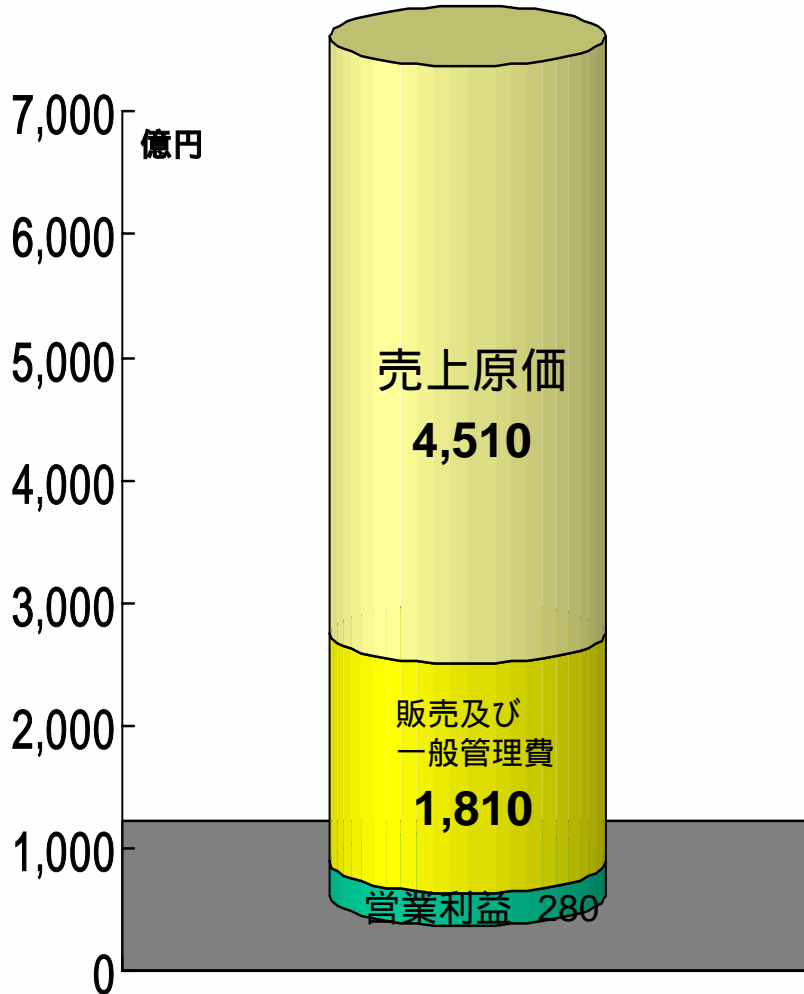


予想の前提(為替と市場規模)

	為替レート		1円の変動による影響額		
	05/3 前提レート		売上高(通期)	営業利益(下期)	
USドル	107円		16億円	3億円	
ユーロ	128円		11億円	2億円	
	IC用新品	LCD用		DSC コンパクト	DSC 一眼レフ
市場規模 04CY	550台	160~180台	市場規模 04FY	5,950万台	250万台

2005年3月期 業績予想

6,600 (上期 3,122 / 下期 3,478)



営業利益	上期	81億円
	下期	199億円
営業外収益		60
営業外費用		150
経常利益	上期	47億円
	下期	143億円
特別損益		210
法人税等		114
当期利益	上期	78億円
	下期	208億円

対ASML特許訴訟

下記内容にて解決

合意内容

- 和解に伴い当社が総額、145百万米ドル(約160億円)を受領。
- 両社と半導体露光装置に関する包括的なクロスライセンスを締結。

ASML	Carl Zeiss SMT
87百万米ドル	58百万米ドル
60百万米ドル(04年)	40百万米ドル(04年)
9百万米ドル(05年)	6百万米ドル(05年)
9百万米ドル(06年)	6百万米ドル(06年)
9百万米ドル(07年)	6百万米ドル(07年)

2001年12月

ASMLを特許侵害で米国国際貿易委員会(ITC)と米国カリフォルニア州北部地区連邦裁判所に提訴。

2003年5月

ITCによる当社の請求棄却決定を受け米国連邦巡回控訴裁判所(CAFC)に控訴。

2004年8月

Carl Zeiss SMT 訴訟参加。

2004年9月

基本合意覚書締結。

2004年11月

正式契約書調印予定。

2005年3月期予想まとめ ～収益性改善の一年～

- 売上高はステッパーとDSCの台数見直しで予想を下回るが、過去最高を大幅更新。
- 営業利益では、売上高減少の影響をコスト削減による収益性改善でカバーし、前回予想の280億円を達成する見込み。
- 映像カンパニーは、好調を継続するD70を中心にデジタル一眼レフでトップシェアを維持するとともに、中国工場でコンパクトDSCの内製を開始。
- 精機カンパニーでは、ドライ及び液浸ArFの技術アドバンテージを確実なものとするとともに、構造改革を推し進める。また商機を逸することのないよう、液晶ステッパーの生産を行うとともに、次世代機製造の布石を打つ。
- ASML及びCarl Zeiss SMTからの特許訴訟和解金等として、145百万米ドル(約160億円)を下期に特別利益として一括計上し、過去最高の当期利益。
- 配当は中間期4円、年間8円を予定。



2006年3月期の見通し



精機事業

	ICステッパー	LCDステッパー
市場予測	600台 (うち中古100台)	110 ~ 130台
販売台数予想	今期並み	今期比3割程度減
売上高	増収	減収
営業利益	増益	減益

市場予測のみ暦年

映像事業

	コンパクトDSC	一眼DSC
市場予測	7,000万台	400万台
出荷台数予想	今期比1割増	今期比5割増
売上高	横ばい	増収
営業利益	増益	増益